

鹿屋市立田崎小学校 特別の教育課程の実施状況等について

1 特別の教育課程の概要

本校では、文部科学省教育課程特例校の指定を受け、下記の時数を確保し、英語教育を推進しています。

英語大好きな子どもたちをイメージし、小学1年生から児童の興味・関心や理解度に合わせた英語を使って段階的に指導し、小学校6年間を通して、総合的にコミュニケーション能力の基礎を育成することを目指しています。

学 年	1年	2年	3年	4年	5年(教科)	6年(教科)	総時数
年間時数	20	20	35	35	70	70	250
使用する教材等	オリジナル	オリジナル	Let's Try!1	Let's Try!2	教科書 My Book	教科書 My Book	

2 本校の教育目標

自ら学び 心豊かにたくましく 生きる力を身に付けた田崎の子の育成

3 本校の英語教育の実践について

本校は、鹿屋市英語教育圏第4区の事務局校になっており、英語指導講師が在籍している。そのため、1週間の内2～3日は、英語指導講師かALTが入っての授業を行っている。そのうち、高学年には、週2時間中1時間か2時間、2人のネイティブの内1人は授業に入れるよう計画が立てられている。

また、鹿屋市の指導計画に従い、コミュニケーション能力を育成するための指導を重点的に行っている。高学年については、1単位授業以外に、毎週木曜日の朝、外国語のモジュール学習を取り入れている。チャンツなどを通して、外国語にふれる機会を増やしている。

4 特別の教育課程の実施状況に関する検証結果

(1) 自己評価（児童）の結果から

英語の授業は好きですか。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
好き	77.8%	63.8%	47.9%	54.7%	33.3%	22.4%
どちらかというと好き	13.5%	12.4%	36.2%	28.4%	37.5%	45.9%
あまり好きではない	5.8%	4.8%	7.4%	13.7%	19.8%	28.2%
好きではない	2.9%	19.0%	8.5%	3.2%	9.4%	3.5%

(2) 自己評価（教員）の結果から

Q1 1年生からの英語教育の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

思う	どちらかと思う	どちらかと思わない	思わない
52%	44%	4%	0%

Q2 1年生からの英語教育に期待することは何ですか。（自由記述、一部抜粋）

- ・ ゲーム要素を取り入れ、楽しみながら英語に慣れ親しむことができる。
- ・ 相手と積極的にコミュニケーションを取ったり、自分の意見をはっきり伝えたりできるようになって欲しい。
- ・ 日本語でも英語でも、相手の目を見る、笑顔などの基本的なコミュニケーションスキルを身に付けて欲しい。
- ・ 外国と日本の文化の違いやつながりを知り、外国語への興味を高めて欲しい。

(3) 保護者評価結果から

Q1 お子さんは、英語の授業が好きですか。

思う	どちらかと思う	どちらかと思わない	思わない
47.3%	43.4%	8.6%	0.7%

Q2 1年生からの英語教育に期待することは何ですか。（自由記述、一部抜粋）

- ・ 英語の楽しさを感じさせる授業を展開して欲しい。
- ・ 学んだことを生かしながら、日常で使える英語を身に付けて欲しい。
- ・ 恥ずかしがらずに、ジェスチャー等を使ってコミュニケーションを取れるようになって欲しい。
- ・ 英語学習に抵抗や苦手意識をもつことがないように指導して欲しい。

(4) 学校関係者評価結果から

Q1 1年生からの英語教育の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

思う	どちらかと思う	どちらかと思わない	思わない
80%	20%	0%	0%

Q2 1年生からの英語教育に期待することは何ですか。（自由記述、一部抜粋）

- ・ コミュニケーション能力の育成
- ・ 遊びを通じて英語に触れている様子から学ぶ準備ができるので、児童にとってはよいことだと思う。
- ・ 低学年の内から英語に慣れ親しむことができるようにするには効果があると思う。英語は話すことが苦手であることから、自ら進んで話をするができるようになる

って欲しい。

- ・ 何事でも触れるということがよい。関わることによって世界が広がる。
- ・ “話すこと”を積極的に、恥ずかしがらずにできる。難しいというイメージではなく、取り組み方が他の教科と同じようになることを期待する。
- ・ 「英語の学習は楽しい」と全ての児童が感じることをできるような時間であって欲しい。小学校高学年や中学校の教科としての英語学習につなげて欲しい。
- ・ 「英語は楽しい」「英語が好き」「英語を話せるようになりたい」という気持ちを大切に育て、中学校に進学させて欲しい。

5 今後の取組について

本校が属している鹿屋市英語教育圏第4区では、進んで英語でのコミュニケーションをとる児童を育成するために、教師も児童もCCE（コミュニケーション・クラスルーム・イングリッシュ）を積極的に使うことを研究テーマに設定している。今年度は、テーマ実現に向けて、田崎中と共通のCCEのカードを使って授業に取り組むよう共通理解を図っている。2学期以降も、すべてのクラスで積極的にCCEを使っていけるよう計画に従って学習に取り組みたい。